

Improved esophagography screening for esophageal motility disorders using wave appearance and supra-junctional ballooning

畑, 佳孝

<https://hdl.handle.net/2324/6787460>

出版情報 : Kyushu University, 2022, 博士 (医学), 課程博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)

氏名： 畑 佳孝

論文名： Improved esophagography screening for esophageal motility disorders using wave appearance and supra-junctional ballooning

(波様所見、接合部上バルーンを用いた食道運動異常症に対するスクリーニング食道造影検査の精度向上)

区分： 甲

論文内容の要旨

高解像度食道内圧検査 (HRM) は食道運動異常症 (EMDs) 診断におけるゴールドスタンダードであるが、専門施設にしかない特殊な装置を必要とするため、一般診療で施行可能なスクリーニング検査の開発が望まれている。本研究では、EMDs診断において、我々が提唱した2つの新規所見を用いてバリウム食道造影検査 (BE) スクリーニングの有用性を評価した。2013年1月から2020年10月の間に、EMDsが疑われHRMとBEの両検査を受けた244症例を分析した。HRMは、シカゴ分類3.0版を用いてEMD診断を行った。BEは硫酸バリウムを用いた食道連続撮影を行った。EMDsに対するBEスクリーニングは、3つの従来BE所見 (液面形成、数珠様・コークスクリュー様所見、無蠕動・微弱蠕動) と2つの新規BE所見 (波様所見、接合部上バルーン) を用いて行った。2つの新規所見と従来所見を用いてEMDsを診断するBEスクリーニングの感度と特異度はそれぞれ79.4%と88%であった [受信者動作特性曲線下面積 (AUC) = 0.837]。2つの新規所見を除いた場合、感度と特異度はそれぞれ63.9%、96%であった (AUC = 0.800)。食道アカラシアは液面形成と高い相関を示し (88.7%)、absent contractilityは、無蠕動・微弱蠕動と高い相関を示した (85.7%)。遠位食道痙攣と数珠様・コークスクリュー様所見との相関は60%、アカラシアと波様所見との相関は59.7%と比較的高かった。個々のBE所見の評価者内再現性、評価者間一致率はそれぞれ84.4%、75%であった。波様所見は積算弛緩圧 (IRP) が高く、遠位潜時が短いことと関連した。また、接合部上バルーンはIRP高値と関連していた。以上から2つの新規所見を追加することでBEスクリーニングは一般診療においてEMDs診断に有用な可能性が考えられた。